

# 第 4 回 胎内市総合計画策定に係る 市民ワークショップ

◇日 時 平成 28 年 5 月 25 日（水） 19：00～21：00

◇場 所 胎内市役所 501 会議室

◇次 第

時 間	全 体	グ ル ー プ	内 容
18:00～19:00 (約60分)	○		0. グループの垣根を越えた情報交換 ・参加者が多数の場合、各卓を回るワールドカフェ方式 ・参加者が少数の場合、各自付箋を貼る→全員で内容確認
19:00～19:05 (約5分)	○		1. 開 会 2. あいさつ 3. 資料の説明 ・本日の作業内容について
19:05～20:10 (約65分)		○	4. グループ別討議 ・前回の検討内容のふりかえり ・まちづくりの方向性および施策案について意見交換
20:10～20:40 (約30分)	○		5. 全体発表 ・グループ別討議の内容の発表 (最後なので発表者以外も一言！)
20:40～21:00 (約20分)	○		6. 閉会 ・提案の今後の取り扱いについて ・胎内市よりご挨拶 ・ミニ・アンケートの記入、記念撮影

市長になった  
つもりで

～本ワークショップの心得～

**全員で**

遠慮せずに積極的に発言を！  
「つまらない意見かも」と考えずに話し合いの輪に参加しましょう！

**楽しく**

他の人の意見を否定しない！自分とは異なる視点や意見を尊重しましょう！

**意見“交換”**

発言は手短かに！他の人が発言する時間を奪わないようにしましょう！

## ■本日の作業内容

第4回のワークショップのテーマは、「第4回 住民提案のまとめ」です。

- 次頁以降に、ここまでの検討内容を1つのストーリーにまとめた住民提案の叩き台を用意しています。
- 今回はこの叩き台を見ながら、これまでどんなことを話し合ってきたのかを改めて確認し、内容に違和感がないか、追加しておきたい内容がないかを話し合います。
- あわせて、19時の開会前に他のグループの方から出された意見についてもうまく取り入れられるところがないか対応を検討します。

住民提案の叩き台は3グループ共通して以下のような構成となっています。

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| <b>1. ○○グループの現状認識</b> | : 市の現状をこのように捉えている |
| ↓                     |                   |
| <b>2. まちづくりの方向性</b>   | : だからこういうまちを目指したい |
| ↓                     |                   |
| <b>3. 目標を実現する施策案</b>  | : そのためにこんなことに取り組む |

## ■提案の今後の取り扱いについて

市民ワークショップは本日が最終回です。

### <最終版のとりまとめについて>

- 今回出てきた修正・追加内容を反映した住民提案の最終版は、後日、ワークショップ参加者全員にお送りします。
- 修正・追加作業は、各回のまとめの作成作業と同様事務局で行う予定ですが、確定の前に確認等が必要な場合は、グループ毎にやり方を相談してください。

### <市民提案の総合計画への反映について>

- これから10年の市政の最上位計画という性格上、全ての提案を総合計画に反映することはできませんが、現行の方針で見直すべき所はないか、うまく取り込めるものはないか、検討していきます。(例えば、PRの具体的な方法といった個別のアイデアまで書き込むことは困難ですが、提案の裏にある狙いを取込んでいく等です。)
- 住民提案の最終版については、庁内の検討の場で取り上げるのはもちろんのこと、策定審議会(第1回ワークショップの資料参照)の委員に配布して検討の参考にさせていただきます。

### <その他>

- 総合計画の冊子には、策定の経緯として市民ワークショップの開催の記録(参加者の全員氏名やワークショップ時の写真)等も掲載する予定です。
- ご自身の名前等を掲載したくないという方は事務局まで個別にお知らせください。

## 1\_自然環境グループの提案

## 1. 自然環境グループの現状認識

私たち自然環境グループは、現在の総合計画が掲げる目標「住む人が安心・快適に暮らせるやさしいまち」に関して、現在の状況を以下のように捉えています。

## ① 豊かな自然について

## ○胎内市のよいところは、まず自然！

山あり、川あり、海あり、そして、春夏秋冬それぞれの魅力があるものの、「地域資源が点在」「PRできていない」「情報発信が下手」「インターネットへの対応不足」といったことから胎内市の良さが知られていないといった課題も

## ② 胎内の伝統・文化・観光・食について

## ○秋には民謡流し、山車や神輿の出る祭りもあり、伝統・文化の息づくまち！

米粉、山菜、川の魚、海の魚といった豊かな食もある一方、「公共交通が充実していない」「市民の主な移動手段が車」であることから交通アクセス性に課題も

## ③ 胎内の教育について

## ○実は、胎内市は誇るべき教育の質の高いまち！

市民が普通と思っている胎内市が行っているキャリア教育（小5で民泊、中2で職業体験等）、学力やスポーツ活動で全国表彰、保育園待機児童0など、教育が充実している一方、若い世代は進学・就職を機に市外へ出てしまうという課題も

## 2. まちづくりの方向性

「観光資源となる地域の魅力が多くあるが、点在してネットワーク化していない」「身近な自然、食や伝統文化がある胎内市を知らない人が多いのは、PR不足」「若い人にとっては市内の魅力不足のため、就職などで市外へ流出」という課題が胎内市にはあります。

良いものをたくさん持っている胎内市でありながら、それを知らない人が多いことから、我々のグループではまちづくりの目標を以下の通り設定します。

**知れば知るほど 住みたくなるまち**

そして、この目標を実現するために これからは

**A 点で存在している地域資源を“ネットワーク化”させる**

**B もっと広くPRして“人を呼びこむ”をつくる**

**C 市民・市役所・企業(民間)は“自ら考え・行動・連携”する**

ことが重要だと考えています。

## 3. 目標を実現する施策案

市内には自然・伝統・文化・歴史・食・教育といった、胎内にしかない魅力がたくさんある。これらを**市民自らが、地域の良さ、そして、課題を知る**ことにより、**自らが課題に向けて行動**していくことができる、まちの実現を目指します。

## ① 観光ルートづくりによる魅力向上とネットワーク化

- 交通：JR 中条駅とロイヤル胎内パークホテルまでの交通手段としての“のれんす号”の活用、レンタサイクルやレンタカーの活用と市内観光ルートの開発
- 観光コース：市内の観光地や食などの楽しみを回遊できるモデルコースづくり
- 食のアラカルト：滞在時間を食で延長（ここにこなければ食べられない“どろ海老”）

## ② 人・かね・もの・ことを呼びこむづくり

- 情報：市内のどこに行けばよいかわかる「パンフレット」作成と観光客向けの配布看板・サイン（例：道の駅に行きたくてもどこにあるかわからない）
- 情報発信の場所：人が多く訪れる場所（例“道の駅”“スーパー”）置いてある場所を知るしくみ
- 情報発信の方向：地元ではなく、市外・県外にPR
- 情報発信の方法：TV、新聞、情報紙、SNS の力を借りる（例“フェイスブック”“ツイッター”“インスタグラム”“ライン”）

## ③ 市民・市役所・企業(民間)の役割分担

- 市民：胎内市を知るしくみ（例“胎内の検定”）知られていない胎内市の良さを発信（例“奥胎内”）観光地でのガイド（ボランティア）写真を撮ってSNS 発信（例“誰でもフォトグラファー”）
- 市役所：限られた予算での市民目線のサービス提供（社会保障）市民の声を行政に直接伝える場づくり（例“子ども版ワークショップ”）ここにしかない地域の魅力発信（例“日本一小さい楡形山脈”観光協会）既にある地域資源を全国レベルまで磨き上げ（例“動物園”）
- 企業（民間）：古い経営体質を改善する発想と行動 交流人口や宿泊者数の増加を市外イベントと連携（新潟市開催イベント）

## ④ その他の具体的な提案

- 1) 第1次基本計画の検証
  - 今回の第2次計画をつくっていく前に、第1次計画で何ができて何ができなかったか、整理しておく。
- 2) 地域活性化（人口減少の抑制、移住・定住）
  - 人口を増やし地域が活性化していくために、商店街の復活が不可欠でそのための駐車場整備が必要
  - 空き家バンクを学生も気軽に使えるよう“貸す”“借りる”ができるよう配慮

2\_福祉・健康グループの提案

## 1. 福祉・健康グループの現状認識

私たち福祉・健康グループは、現在の総合計画が掲げる目標「住む人が安心・快適に暮らせるやさしいまち」に関して、現在の状況を以下のように捉えています。

### ① まちの環境について

○豊かな自然環境と素晴らしい風景がある一方、市街地には「空き家が多い」「川が汚い」「子どもや高齢者の移動が不便」「道路が狭く危ない（特に冬期）」等の課題も

### ② 福祉・健康分野の支援制度について

○子育てに関しては他市と比べても手厚いサービスが行われている一方、高齢者や悩みを抱えた親への対応、発達障がい者への支援・理解などまだ不十分なところも

### ③ サービス等が受けられる“場所”について

○自然を楽しむ施設やスポーツをする場所が多く、ほっとHOT・中条などの拠点施設や各地域には集会所もある一方、「知られていない」「入りづらい」「親の送迎が必要」「雨や雪の日に利用できない」等の理由で十分に活用されていないという課題も

### ④ 福祉や防災等を支える“人”や“地域”について

○多くのボランティアが活動しているほか、趣味の会や防災等の地域活動に熱心な地区がある一方、一部の人や地域の活動に留まっているという課題も

## 2. まちづくりの方向性

「安心・快適に暮らす上で不便な点や困り事がまちの中には隠れている」  
 「良い制度や施設、サポーターが存在するが困った人には届きづらい」  
 「専門的なサポートが不足している分野もある」という課題が胎内市にはあります。

キラリと輝く人・場所・サービスがありながら、それらが本当に困っている人全てには届いていないことから、我々のグループではまちづくりの目標を以下の通り設定します。

**誰のどんな悩みにも ワンストップで対応できるまち**

そして、この目標を実現するために これからは

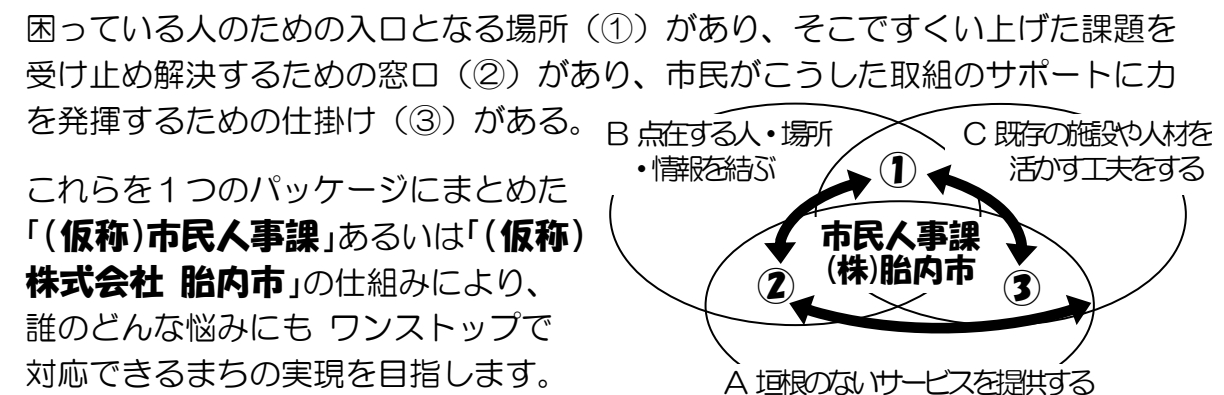
**A 垣根のないサービスを提供する(オープン化)**

**B 点在する人・場所・情報を結ぶ(点を線に、線を面に)**

**C 既存の施設や人材を活かす工夫をする(マイナーチェンジ)**

ことが重要だと考えています。

## 3. 目標を実現する施策案



### ① 困っている人が安心できる場をつくる

- 行政の窓口や図書館、公民館等の複数の機能が入った拠点施設
- 送迎や子どもの預かりなど困っている人が利用しやすい環境が整っている
- 買い物ついでやお茶を飲んで一休みしたい時にふらっと立ち寄れるような場所が上記と併設あるいは単独で存在する

### ② 課題を受け止め振り分ける窓口をつくる

- 行政内の異なる部署を横串でつなぐ対応窓口(例 “すぐやる課”)
- さらに行政と市民、ボランティア団体と社会教育団体等の垣根を越えて見渡すことができる窓口(例 NPOを活用した “市民協働課”)
- または、市民の活動やニーズを把握しつなぎ役ができる外部コーディネーター

### ③ 市民が自分らしく輝ける場をつくる

- 何かしたい市民とその特技などを登録する人材バンク
- ボランティア団体等の日常の活動拠点となり、活動を続ける／始める上でヒントやきっかけが得られるような場(「あそこに行ったら面白い話があるよ」という場)
- 特技を活かす機会(できる人ができる時にできることをやる)の情報の発信基地

### ④ 関連する具体的な提案

①～③を実現する具体的な方策または関連する事項として以下の内容を提案します

- 松原牧場で心のケアを必要とする人のための癒しのプログラムを提供する
- 胎内平で障がい者スポーツ大会を開催する
- 空き家等を改修して世代を超えて交流できる場所や市民活動・情報発信の拠点を設ける
- 雨や雪の日でも土の上で運動ができる子どもの遊び場・高齢者の健康づくりの場をつくる
- (雪が降っても)安全に歩ける道をハード整備・ソフト施策の両面から用意する
- マッサージやネイル、製菓等の得意な趣味を提供できる機会((仮)閩市)をつくる
- 市民の力を活かしながら、もしもの時の備え(コミュニティづくり、避難所の備蓄の確保、音量調節が可能な防災無線の配備等)の充実を図る。

3\_産業振興グループの提案

## 1. 産業振興グループの現状認識

私たち産業振興グループは、現在の総合計画が掲げる目標「活力と希望を生み、交流を育むまち」に関して、現在の状況を以下のように捉えています。

### ① まちの環境について

- 人口減少・高齢化が進んでいます
- 地域資源が豊富にあります
- 親子や若者、高齢者まで楽しめる施設が沢山あります
- 大きく著名な企業があります

しかし

- 若者が減少し、後継者不足です
- 資源は沢山ありますが、施設の老朽化などの課題があります
- 新卒者を受け入れている企業が少ないです
- 工業団地の敷地が余っています

### ② 産業分野の現状について

- “米粉グルメ”という珍しい食物があり、チューリップや葉たばこは県内有数の産地となっています
- 観光資源(海～川～山脈)が多くあり、レジャー施設も多くあります
- 市内に大型店や小規模な老舗店舗の店舗が分布しています
- 大きな工業施設があります

しかし

- 農業や商業店舗の後継者が不足していますが若者は市外に職を求めて出ていきます
- 特産品のPRが足りていません
- 観光施設の老朽化が目立ちます
- 市内店舗の業態がよく分かりません
- 地元企業のリクルート情報がない

### ③ “地域資源”について

- 豊かな自然環境が一杯あります
- 個性的な農業特産品があります
- 広大な農業生産基盤があります
- 様々な観光資源があります

しかし

- まちなかの人々がその価値を感じていません
- 有効な活用方法やPR不足です
- 高齢化、後継者不足、担い手不足
- 観光施設の連携が不足しています

## 2. まちづくりの方向性

ここまでの議論を整理すると……

- 「米粉や紅はるかなど特産品の強みを有効に活用すべきである（特産品の活用）」
  - 「市全体で「パーマカルチャー」のような特徴的な農業に取り組むべきである（特異性）」
  - 「胎内市の観光情報の内容がバラバラで、更新もされていない（情報発信）」
  - 「商店街の活気が不足。各店舗の取扱商品や特徴が分からない（商店街活性化）」
  - 「大企業があるにも関わらず、企業の事業内容の発信や地元雇用が少ない（市内雇用）」
- という課題が胎内市にはあります。

我々のグループでは、そんな現状認識を踏まえて、

**農業をはじめ、エネルギー、雇用、観光も「地産地消」のまち**

をまちづくりの目標に設定します。

そして、この目標を実現するために これからは

- A 地域資源・特産品の活用を工夫(アイディア出し・メディアの活用)**
- B 担い手不足・後継者不足の解消(就農・移住支援、地元雇用)**
- C 空店舗の利活用・商店街の活性化(おもてなし・コンシェルジェ)**

(という視点を持って施策を展開する) ことが重要だと考えています。

## 3. 目標を実現する施策案

**自立した地域社会の形成を目指して…(すべての人、全ての分野に共通するが)…「人のせいにしない・自分達でやる」意識の醸成**

施策の推進にあたっては、「市民がすべきこと」「行政がすべきこと」「事業者がすべきこと」があり、それぞれが役割を認識し、実行・協働することが大切。そして「人のせいにしない」で「自分達でやる」ことを醸成して行くことで**自立した地域社会が形成**されることから、その仕組みづくりを目指します。

### <具体的なイメージ>

- 勉強会等によるパーマカルチャーへの理解度を醸成。都会から田舎への担い手育成
- 米粉等の特産品のネーミングと活用法の情報発信。イベントによる知名度の向上
- 市内商店の個性的魅力を発信するマップの提供。ネットデパートの立ち上げ
- 市民の市民による胎内市良いところ探し。観光のパッケージ化→市外からの誘客

### <実現の方法>

- 行政は
  - ☞形ばかりでなく、一人ひとりが親身になって取り組む
  - ☞市民と事業者を結びつける場の提供（交流・共有）と情報発信
  - ☞財政面の支援。公共施設の有効活用
- 市民は
  - ☞まちづくりWSやイベントなどに積極的な参加。自らの声（意見）を発信
  - ☞市民自らによる胎内市の魅力発信。「おもてなしコンシェルジェ」の育成と活動
- 事業者は
  - ☞市と事業者の連携。事業者のまちづくりへの参画
  - ☞高校生・大学生等に職場体験を通じて地元雇用の拡大（就業の場確保）
  - ☞事業者として地域課題を認識し、市民・行政と協働による解決